

障害のある方との関わりを通して、共に生きる意味を深く追究 ~第8回古河市中学生の主張大会において飯田優稀さんが発表~

11月18日(水)、ユースセンター総和において、中学生の主張大会が開催されました。本校からは、2年生を代表して飯田優稀さんが、体の不自由な方との関わり合いを通して考えた「本当の優しさ」について堂々と発表しました。

また本校の生徒は大会の運営も担い、その役割を立派に果たしました。

以下に、飯田さんの発表原稿の要約を掲載します。相手を思いやることの本当の意味を追究しながら、私たちが社会の一員として障害のある方とどう関わっていくべきなのかを気付かせてくれるすばらしい内容です。ご家庭においても、この文章を活用し、お子さんとの会話のきっかけにしてみてください。



「共に生きるということ」

「人権」について考えるとき、私たちは障害のある人を「弱い者」と勝手に決めつけ、彼らにどれだけ多くのことをしてあげられるか、ということを考えてしまいます。私は、このことについて、いつも疑問を感じるのです。

私のお母さんの友達に、体の不自由な方がいます。その方は昔、脳梗塞を患い、後遺症で右半身が少ししか動きません。私は初めてその姿を見たとき、「かわいそうだな」と思い、この人のために何ができるか、どのように手をさしのべることができるか、ということばかり考えていました。そして、それがこの方のためになると信じ込んでいたのです。

しかしある時、その方はこんなことを言いました。「僕は生きることが楽しい。だからね、自分でできることは何でもやっとうると思うんだ。」それを聞いて、私は少し申し訳ないような、それでいて勇気付けられるような気持ちになりました。

その後も、色々なことをお話ししていただきました。病気になる以前から、動物が好きで、たくさんの犬たちに囲まれて生活していること。そしていつか、自分が愛してやまない犬たちと外で一緒に遊んだり走ったりしたいと思っていること。自分の夢をまっすぐ語るその姿は、とても輝き、幸せそうでした。そして最後に、「人は誰でも得意なこと、苦手なことがある、それは人と比較する必要のない大切な個性だ。『障害』もその一つであるということにみんなにも気付いてほしいんだよ」とおっしゃいました。

さて、こんなにもすばらしい人が、「弱い者」でしょうか。そんなことはありません。むしろ尊敬すべき「強い人」です。この方に出会うまで、私は障害者は一方的に不自由を強いられ、優しくしなければいけない、です。手助けをしてあげなければいけないと考えていました。しかしそれは、私たち健常者の勘違いであり、思い上がりだったということに気付かされたのです。

「優しさ」を持つことはとても大切なことです。しかし、それが本当に優しいかは、自分が決めることではなく、相手を感じることで私は思います。押しつけた優しさは、その人の自由や権利を奪い、深く傷付けてしまいます。障害のある方々に対して「かわいそう」だとか「不憫だ」という気持ちで接すること自体、どこか差別であり、平等ではないと思うのです。「共に生きる」ということは、無作為に手を貸すこととは違うと思います。私たちが本当にすべきことは何かを考え、そして見守り、必要なときには全力でサポートする。これが、これからの社会に必要なことだと私は考えます。

相手のことを一番に考えた「本当の優しさ」。それをしっかり考えられる人になりたいです。そして世界のすべての人が毎日笑顔で過ごせる日が来ることを心から願っています。

三和東中学校が茨城県内優秀校6校に選出される快挙! ~「茨城県幡谷教育振興基金」理科教育優秀校の栄冠に輝く~

11月24日(木)に「茨城県幡谷教育基金」の贈呈式が行われました。この賞は、身近な自然や地域の実態に応じた特色ある教育を実践し、生徒に科学的な見方や考え方を育成するなど、理科教育に積極的に取り組んでいる学校に贈られるものです。

三和東中学校は、特に質の高い科学研究や、アイデア豊かな発明工夫の作品制作に多くの生徒が取り組むとともに、科学の祭典への積極的な参加、さらにはICT機器を活用した授業実践により主体的に表現する生徒の育成を図っている点などが評価され、見事、優秀校6校に選出されました。

表彰式では、橋本昌茨城県知事から表彰状、そして百万円の贈呈を賜るとともに、代表として参加した飯田優稀さん、工藤桃菜さん、染野創太、福嶋亜依莉さん、石山陽一さんは、堂々と本校の取組と理科学習における成果を発表しました。

この百万円は、施設・設備や教材・教具等の充実など、本校の理科教育の発展のため有効活用させていただき、ますます生徒の科学に対する知的好奇心や探求能力を高めていけるよう努めて参りたいと思います。

幡谷 仙三郎(はたや せんさぶろう)

現在の小美玉市に生まれ、40歳の時に町長に就任し、9年間、町の発展に寄与する。昭和25年、県信用組合を創立、理事長となり県内有数の金融機関に発展させた。昭和30年には茨城トヨタを買収し、県内一の自動車販売会社に育て上げるとともに、関連会社を20社余りを創業した。県会議員も務め、県の政財界の発展に大きな足跡を残した。



自分の将来について真剣に考えました ~2年進路学習「卒業生から学ぶ」開催~

11月30日(木)に、2年生による進路学習が2階ホールで行われました。「先輩から学ぶ」ということで、今年卒業した三和東の卒業生から、進路決定までの悩みや、どんな夢を抱いてがんばり抜いたかなど、体験を踏まえたお話をいただきました。また、高校での生活の様子についても紹介していただきました。よく知っている先輩からのお話ということで、2年生は、進路を自身の問題としてより実感を持って捉え、真剣に考えることができました。



ICT教育先進校として視察を受けました!

11月22日(水)に本校のICTの取組を、自校の教育活動に生かしたいということで蔵王高校の先生が山形県から視察に訪れました。

数学・理科・技術等を参観しましたが、「アンケート機能をリアルタイムに提示できる技術に感激しました」と、ICT機器の活用についてはもちろんのこと、「みんな集中して、落ち着いて授業に取り組んでいて素晴らしいですね。」と学習態度のすばらしさについても、称賛されました。



ICT授業公開

12月1日(木)にICT授業公開が3年3組で行われました。英語でクローズドブックを使いEメールを送信する」という内容でしたが、活発に話し合い、生き生きとメール作成に取り組みました。

